

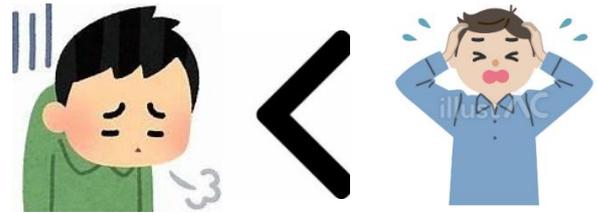
失敗のススメ? ～「やらない後悔」より「失敗の後悔」を～

校長 近藤 幸栄

桜の花も散り、木々は目にまぶしい新緑の緑の装いへと変わってきました。桜の花の季節が、遠い昔のようです。新学期が始まって1か月、どの学年の子どもたちも新しい学年に希望とやる気をもって過ごしています。特に6年生は最高学年として、1年生のサポートや運動会に向け張り切って過ごしています。

教員になってから今までも、本当にいくつもの失敗をしてきました。小さな失敗であれば、それこそ毎日のように失敗をしていると思います。いくつかの大きな失敗、恥ずかしい失敗の記憶については、今でもはっきりと覚えています。

私が小学校で児童会の役員をした時でした。私が児童会行事で賞状を渡すことになりました。人手が足りなくて、次に渡す賞状をとんでもないところにおいて大失敗をしたことを、今でも恥ずかしさとともにしっかりと覚えています。今思い出しても恥ずかしい失敗ですが、児童会役員になっていなければ起こらない失敗でした。しかし、児童会の役員になったことによって、それ以上の経験もたくさんできたと思っています。



やって『失敗』した後悔は、チャレンジした分、時間とともに学びとなっていきます。

もう一つの『失敗』、「あの時一步踏み出していれば・・・」「あの時、こうやっておけば・・・」という後悔は、結構心に残るものです。

やらなくて後悔するより、チャレンジして失敗して後悔する方が、前向きだし、生産的です。次につながります。

また、「チャンス」は、突然やってくるように思いますが、実は「しっかり準備してきた人」にやってくるのではないのでしょうか。「しっかり準備した人だからチャンスに気付ける」ものだと思います。普段から準備したり、努力したりしている人は、「今だ!」というタイミングに気付けるし、動けるのだと思います。しっかり準備をしていない人は、チャンスを目の前にしても、動けなかったり、後で気付いたりするのではないのでしょうか。私などは、いつもこの繰り返しのように感じています。チャンスを待つのではなく、「いつでもつかめる自分をつくっておく」ということが大事なように思います。

学校でも、「あれに立候補しておけばよかった」、「これにチャレンジしておけばよかった」と思うことはたくさんあると思います。実際に引き受けたりチャレンジしたりすることによって苦勞すること、大変になることはたくさんあるかもしれませんが、しかし、チャレンジすることによって成長するし、学びもたくさんあります。学年が一つ上がりやる気を見せている子どもたちにも、この一年、やらない後悔ではなく、まずはチャレンジしてみて次につながる「失敗」(チャレンジ)をたくさん積み重ねていってほしいと思います。

